

令和7年度 前期学校評価 自己評価書

鬼北町立泉小学校 令和7年7月

【評価基準】 A:目標を達成 B:75%以上達成 C:60%以上達成 D:60%未満の達成 4:そう思う 3:どちらかと言えばそう思う 2:どちらかと言えば思わない 1:思わない

項目	重点目標	評価指標及び目標値		評価	学校による考察・改善方針	評価資料	評定	アンケート結果(%)						担当者	
		評価指標	目標値					4	3	2	1	指数	全体平均		
1	豊かな心と健やかな体の育成	生徒指導の徹底	① 基本的生活習慣(気持ちのよい挨拶)は、適切に指導され、身に付いてきている。	児童、保護者、教職員、学校運営協議会委員アンケートにおける指数 85%以上	A	【考察】 全体的に落ち着いた学校生活をしていると評価されている。しかし、児童・保護者の回答において、挨拶に関して低い評価が見られた。教職員の記述意見の中にも、挨拶の改善を進めていきたいという意見があった。地域の方からは、元気に挨拶ができてきているという好意見をいただいている一方で、他項目と比較して低評価となっている部分でもある。毎朝、学級では「泉の子7つの約束」「学びの約束」を復唱しており、意識の維持はできていると感じる。 【改善方針】 ①児童会が中心となり、「たかのす会議」で挨拶や生活習慣における課題を提案し、全校で課題解決に向けた話し合いを行う。 ②現在行っている挨拶運動の取組を工夫・改善し、全校児童へ挨拶の輪を広げられるようにする。 ③「泉の子7つの約束」と「学びの約束」の復唱を継続し、決まりを守る意識を持たせる。	児童アンケート(7つのやくそく) 児童アンケート(挨拶) 保護者アンケート 教職員アンケート 地域有識者アンケート	A B B A A	46 52 26 50 63	55 36 65 50 38	0 9 4 0 0	0 3 4 0 0	86 84 78 88 91	85	生徒指導主事
		② 教育相談や教育相談的対応に取り組み、児童理解とコミュニケーションが深化した。	児童、保護者、教職員アンケートにおける指数 85%以上	A	【考察】 SSWが定期的(月2回程度)に来校し、児童への教育相談を実施してくれている。ただし、児童の中には、先生や友達には相談しにくいと答えている児童がいる。毎月のいじめに関する調査等を活用し、教育相談の機会を設ける必要がある。 【改善方針】 ①学級担任による定期的な教育相談の実施、SSWによる教育相談の充実を2学期以降も継続し、児童全員が、職員と相談できる機会を設定する。 ②教職員と児童との人間関係を一層深めていけるよう、日常の関わり(遊び、日記指導、会話等)を大切に学級経営に努める。	児童アンケート 保護者アンケート 教職員アンケート	B A A	36 48 100	36 48 0	21 4 0	6 0 0	76 86 100	87	生徒指導主事	
	健康安全教育の推進	① 教科体育・体育的行事の指導が充実し、体力向上に役立った。	児童、教職員アンケートにおける指数 85%以上	A	【考察】 教務主任が教科体育の時間調整を図り、適切に時間確保がなされた。春の運動会でも全校児童が一体となって取り組めた。今年度も、放課後水泳練習に3年生以上の多くが参加し、泳力を伸ばすことができた。こうした取組により高い評価が得られた。ただ、熱中症対応等で練習時間を短縮したり、活動場所を室内に変更したりしながら体育活動に取り組まなければならないことが増えてきた。 【改善方針】 ①体育授業の充実を図り、低学年時からの体力向上を図る。 ②陸上記録会や持久走大会等の体育行事がある。体育授業や放課後課外体育等の運動機会を生かし、児童の体力向上を図る。	児童アンケート 教職員アンケート	A A	85 75	15 25	0 0	0 0	96 94	95	生徒指導主事	
		② 適切な給食指導や保健指導及び交通指導等を実践し、校内外における健康・安全の確保に努めている。	児童、保護者、教職員アンケートにおける指数 85%以上	A	【考察】 全体的に高い評価を得られている。歯磨き指導については、養護教諭を中心に学級担任とともに丁寧に行っている。給食指導については配膳量を事前に調節して個に応じた対応をしたり、全校給食を行って楽しい給食時間になるよう配慮したりしたが、よりよい食事習慣が身に付くよう、一層の給食指導が大切である。交通指導については、見守り隊の方が毎日一緒に歩いてくださり大変ありがたい。 【改善方針】 ①個に応じた配膳量への配慮等を継続するとともに、よりよい食事習慣が身に付くよう、食事のマナーや食べ方等について、保健給食委員会から呼び掛けたり、学級指導をしたりする。 ②偏食についての指導は、保護者の協力も得ながら学校と家庭で連携を図る。 ③登下校中の安全に関して、たかのす会議等で話し合う機会を設け、安全に気を付けてよりよく登下校をする意識の向上・維持を図る。	児童アンケート(登下校の安全) 児童アンケート(歯磨き、洗顔、朝食) 保護者アンケート(保健指導・交通指導) 保護者アンケート(生命尊重) 教職員アンケート	A A A A A	73 82 67 59 88	24 18 33 36 13	3 0 0 5 0	0 0 0 0 0	92 95 92 89 97	93	生徒指導主事	
特別支援教育・人権教育・道徳教育の推進		① 生活班活動や児童会活動、学校行事等を通じて友達と協力して物事をやり遂げたり高め合ったりする心を育てている。	児童、保護者、教職員アンケートにおける指数 85%以上	A	【考察】 昨年度以上に全校遊びの機会を増やし、異学年交流を積極的に進めたことで、高学年のリーダー性を高めたり、集団づくりに生かしたりできた。児童も全校遊びを楽しみにしている。その他の活動でも児童が協力して取り組む姿が多く見られたが、それらの活動に児童の自主性や協調性等が一層見えてくるようにしていくことも必要である。 【改善方針】 ①全校遊びの機会を今後も継続して設けるとともに、他の活動でも異学年交流の場を多く設けるよう、活動内容を工夫する。 ②高学年のリーダー性や児童の自主性を高める、児童会を中心とした活動となるよう、特別活動等の見直しや改善を図る。	児童アンケート 保護者アンケート 教職員アンケート	A A B	76 52 38	24 39 63	0 9 0	0 0 0	94 86 84	88	生徒指導主事	
														※合計が100%になっていないところがあります。これは、計算上出てきた十分の一の位を四捨五入しているためです。	

令和7年7月

【評価基準】 A:目標を達成 B:75%以上達成 C:60%以上達成 D:80%未満の達成 4:そう思う 3:どちらかとも言えそう思う 2:どちらかとも言えない 1:思わない

項目	重点目標	評価指標及び目標値		評価	学校による考察・改善策	評価資料	評価	アンケート結果(%)						担当者
		評価指標	目標値					4	3	2	1	指数	全体平均	
2 確かな学力の定着と向上	授業力の向上	① 目標と指導と評価の一体化を目指し、ねらいを明確にした授業を展開している。	児童、保護者、教職員アンケートにおける指数 85%以上	A	【考察】 これまでも課題として考え、授業改善を行ってきた。教職員については、ねらいや目標を明確にした授業実践に取り組む意識が見られる。しかし、指導と評価の一体化を目指すためにも振り返りの場をしっかりと設定することが大切だと考えている教職員も多く、まだまだ課題がある。 【改善策】 ①ねらいの提示、振り返りの場の設定を今後も確実にし、自己評価や教師による児童の学習成果の見取りを次時に生かせる授業づくりに努める。 ②児童自身が、授業のめあてに対する振り返りをしっかりとできるよう時間の確保をする。	児童アンケート 保護者アンケート 教職員アンケート	A A B	55 53 38	42 42 63	3 0 0	0 5 0	88 86 84	86	学力向上推進主任
		② 自分の考えをまとめたり、表現したりする活動を大切に授業を展開している。	教職員アンケートにおける指数 90%以上	A	【考察】 これまでも課題として挙がっていた項目である。NIEの研究実践の成果でもあるが、友達と話し合ったり、考えや調べたことを新聞形式にまとめたりする活動を授業の中に多く取り入れることができてきている。 【改善策】 ①新聞づくりを、調べたことや自分の考え・感想等を発表する場として捉え、様々な教科で意図的に新聞形式にまとめる学習を今後も積極的に設定する。 ②自分の思いを伝えたいと思えるような授業展開の工夫など、表現することに必然性を持たせるような授業改善に取り組む。	教職員アンケート	A	71	29	0	0	93	93	学力向上推進主任
	基礎・基本の定着	① 「学びの約束」を指導し、学習規律の確立に努めている。	児童、教職員アンケートにおける指数 85%以上	A	【考察】 「学びの約束」については、朝の会等で復唱している学年が多く、学習規律の維持向上に役立っている。しかし、ただ復唱をしているだけになっている児童がいるという意見が挙がった。よりよい学びにつながるよう、取組に工夫が必要である。 【改善策】 ①よい取組状況を称賛する等、「学びの約束」を実際の学びにつなげていけるよう、教職員・児童ともに、一層の意識付けを図る。 ②「学びの約束」の中でも、重点目標を決め、クラス全体で目標達成に向けた取組を行う。	児童アンケート 教職員アンケート	B A	42 43	55 57	3 0	0 0	85 86	85	学力向上推進主任
		② 漢字の読み書きや計算の定着を目指し、いり等で繰り返し指導している。	保護者、教職員アンケートにおける指数 85%以上	A	【考察】 昨年度のPTAの予算で購入した問題集や、いり、今年度新たに購入した視写教材や読解力育成教材等の多様な教材がある。また、デジタル教材も整備されている。それらを組み合わせ活用している。教職員の評価から、十分な活用が図られたことがうかがえるが、保護者の評価では低評価も見られる。 【改善策】 ①担任が宿題等のチェックをしっかりと行い、学習内容の定着を図る。 ②家庭学習の様子を保護者に伝えたり、よりよい学習方法の紹介をしたりしながら、児童の学力の向上を図る。 ③漢字や計算といった学習の基礎となる部分が定着・向上するよう、課題の与え方やプリント教材とデジタル教材の有効な活用方法を工夫する。	保護者アンケート 教職員アンケート	B A	48 71	44 29	0 0	9 0	83 93	88	学力向上推進主任
	家庭学習の定着	① 家庭学習の各学年の目標時間が達成できるよう指導や啓発に努めている。	児童、保護者、教職員アンケートにおける指数 85%以上	A	【考察】 児童・保護者の評価から、家庭学習の習慣が十分に身につけていない様子がやや見られる。教職員も全体としてはA評価ではあるが、学習時間に関する指導は進めていても、学習内容に関する指導が十分ではないと考えている教職員もいる。学習内容と時間確保の両輪を意識した家庭学習の在り方を考慮する必要がある。 【改善策】 ①家庭学習について、目標時間に相当する課題を課し、学習習慣の定着を図る。また、家庭学習チェックカード週間を活用し、家庭への協力を呼び掛ける。 ②家庭学習チェックカードの記録を確認・累積し、指導や啓発につなげていく。	児童アンケート 保護者アンケート 教職員アンケート	B B A	55 36 57	33 50 43	9 14 0	3 0 0	85 81 89	85	学力向上推進主任
		読書活動の推進	① 読書到達目標の達成に向けて、読書指導を行っている。	児童、教職員アンケートにおける指数 85%以上	A	【考察】 本屋へ行くプロジェクトなど、新しい本に出会う機会を多く持っている。また、今年度は、図書室のキャラクターを児童がデザインし、その名前を全校児童から公募したり、図書委員会が中心となって本に親しむことができるような読書を進めたりしている。ただ、実際に児童が読んでいる本や冊数等を確認すると、その内容には改善の余地があるように考える。 【改善策】 ①図書委員会を中心に、図書室に行きたい、本を借りたい、本を読みたいと思えるような読書環境づくりに一層努める。 ②週末読書や良書の紹介等、読書機会を増やせるような取組を進める。	児童アンケート 教職員アンケート	A A	67 63	33 38	0 0	0 0	92 91	91

令和7年7月

学校の